

名古屋市 公園樹木健全化 なごやプラン

～次世代へつなぐ健全な緑として公園樹木を再生・保全・育成していく～

令和 8 年度から令和 12 年度まで



令和 7 年 10 月
名古屋市

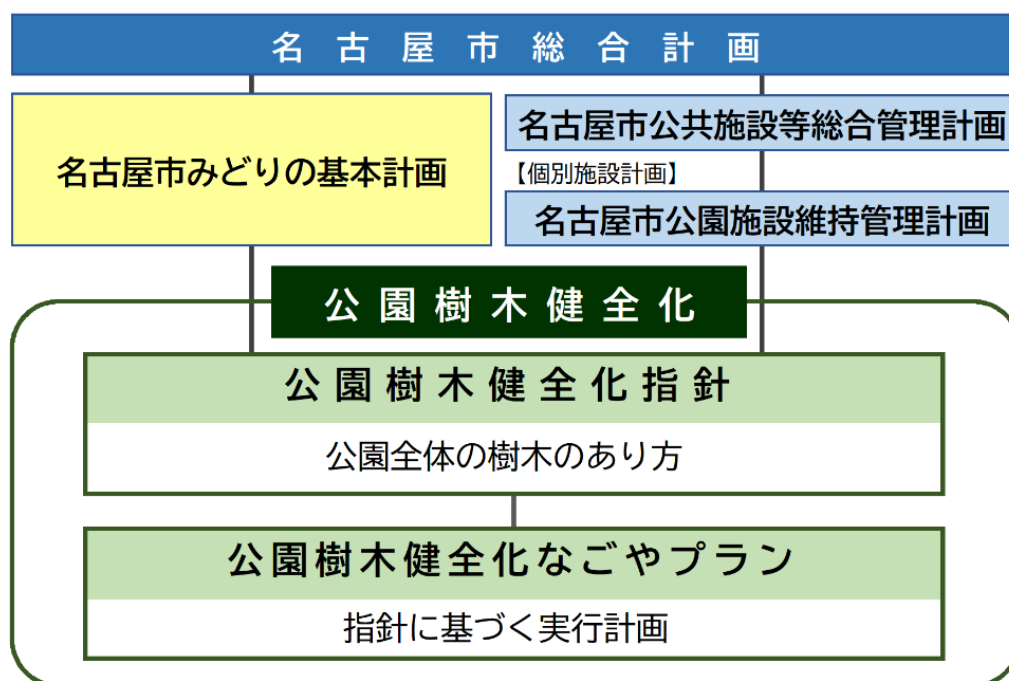
目 次

第1章 はじめに	1
1 目的及び位置付け	1
2 計画期間	2
3 対象公園及び対象の公園樹木	3
第2章 公園樹木健全化なごやプラン	5
1 取組手法とその内容	5
2 想定事業量及び事業費	10
3 事業のフロー	11
4 目指す効果	13
参考資料	15

第1章 はじめに

1 目的及び位置付け

「公園樹木健全化なごやプラン（以下「プラン」という。）」は、「公園樹木健全化指針（以下「指針」という。）」に基づく公園樹木の健全化の実行計画として策定するものです。健全化に向けての具体的な取り組み内容を示すことで、事業の着実な進捗を図ることを目的としています。



2 計画期間

プランの計画期間は、令和8年度から12年度までの5年間とします。本プランは、社会情勢の変化や市民意見等を踏まえ、おおむね5年ごとに見直しを行う予定です。

■プランの計画期間

	令和 8 年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17
公園樹木健全化指針	R8～									
公園樹木健全化 なごやプラン	R8～R12					次期プラン				



3 対象公園及び対象の公園樹木

プランでは、名古屋市緑政土木局が管理する都市公園等のうち、街区公園及び近隣公園を対象とします。対象公園は公園全数の約9割です。

また、対象とする公園樹木は、高さ3m以上の樹木（高木）約58,000本です。

プランの対象となる街区公園及び近隣公園のうち、最も多いのは0.10ヘクタール以下の小さな公園で街区公園の3割を占めています。

■対象とする公園数及び高木本数

公園種別	公園数	高木本数	公園種別の説明
街区公園	1,257 公園 (84%)	約 35,400 本	主として街区内に居住する方の利用に供することを目的とする公園で、街区内に居住する方が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は0.25haを標準として定められています。
近隣公園	107 公園 (7%)	約 22,200 本	主として近隣に居住する方の利用に供することを目的とする公園で、近隣に居住する方が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は2haを標準として定められています。
合 計	1,364 公園 (91%)	約 57,600 本	

※公園数は令和7年4月1日現在のもの。

※公園数の下段（ ）内は本市の都市公園数全数1,498公園に対する割合。

■街区公園と近隣公園の面積分布

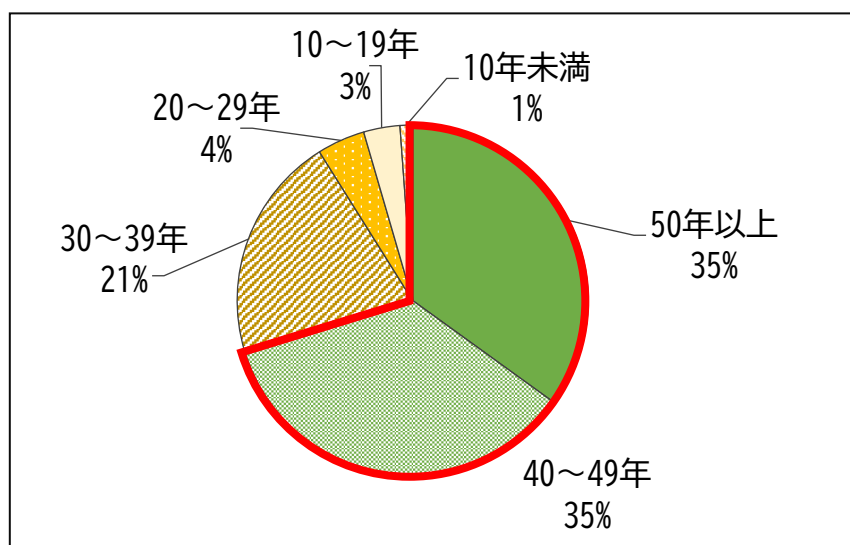
街区公園			近隣公園		
面 積	公園数	割 合	面 積	公園数	割 合
～0.10ha	371	29%	～1.00ha	8	7%
0.11～0.20ha	327	26%	1.00～1.50ha	43	41%
0.21～0.30ha	302	24%	1.51～2.00ha	36	34%
0.31～0.40ha	122	10%	2.01～2.50ha	4	4%
0.41～0.50ha	46	4%	2.51～3.00ha	8	7%
0.51～1.00ha	89	7%	3.01ha～	8	7%
計	1,257	100%	計	107	100%

街区公園及び近隣公園に植栽されている樹種は、サクラ類、ケヤキ、クスノキ、トウカエデ、イチョウの順に多く、これら5種で全体の約45%を占めています。また、開園から40年以上の公園に生育する樹木は全体の70%となっており、大木化や老木化が進行しています。

■ 街区公園及び近隣公園における樹種別樹木本数

順位	樹 種	本 数
1	サ ク ラ 類	約 7,500 本
2	ケ ヤ キ	約 6,200 本
3	ク ス ノ キ	約 4,800 本
4	ト ウ カ エ デ	約 4,000 本
5	イ チ ョ ウ	約 3,100 本
6	クロガネモチ	約 2,700 本
7	ナンキンハゼ	約 2,300 本
8	シラカシ	約 1,600 本
9	アラカシ	約 1,400 本
10	サルスベリ	約 1,400 本
—	そ の 他	約 22,600 本
	合 計	約 57,600 本

■ 街区公園及び近隣公園における開園年度別樹木本数割合



第2章 公園樹木健全化なごやプラン

1 取組手法とその内容

間伐

(1) 安全・安心のための間伐

方針	実行内容
安全・安心の 確保	1 樹木診断等による不健全な樹木の間伐
	2 倒木リスクの高い樹木の間伐

事故を未然に防ぐため、点検・診断等により不健全であると判断された樹木や、外周部にあり倒木した場合に多大な影響を及ぼすことが想定される樹木については間伐を行います。

(2) 健全な樹木の育成のための間伐

方針	実行内容
快適な公園空間 の創出	1 生育空間確保のための間伐（密度の適正化）
	2 樹冠の重なりを解消のための間伐（間隔の適正化）

健全な樹木を育成していくために、植栽密度の高い樹林地等では生育空間を確保するための間伐（密度の適正化）や、樹冠の重なりを解消するための間伐（間隔の適正化）を実施します。

- 間伐対象：4,000 本
- 事業期間：10 年（想定）
- 対 象：400 本/年×5 年＝2,000 本

想定事業量	想定事業費
2,000 本	152 百万円

■ 倒木のリスクの高い樹種等

種 別	種 数	樹 種 名
倒木リスクの高い樹種※	10 種	サクラ類、コナラ、アベマキ、ケヤキ、クヌギ、ヒマラヤスギ、アラカシ、ヤナギ、シンジュ、ポプラ
重点管理木 (落枝のリスクの高い樹種)	2 種	ケヤキ、クスノキ

※過去 10 年間の名古屋市の倒木事例より上位 10 位までの樹種（防風林のマツ、中木のカイヅカイブキを除く）及び過去に重大事故のあった樹種

（３）－１ 植栽空間と調和した植栽帯への再整備（再整備に伴う撤去）

方 針	実行内容
安全・安心の 確保	１ 隣接地へ影響を及ぼす植栽帯の再整備
	２ 公園施設に影響を及ぼす植栽帯の再整備
	３ 防犯性の向上のための植栽帯の再整備

敷地境界に近接し隣接地へ影響を及ぼす樹木、園路や石積みなどに近接し公園施設を破損させる樹木、遊具や公園灯に近接し機能を阻害するような樹木については、適正な配置となるよう植栽帯の再整備を行います。

また、過密化が進行し、公園の内部や外部からの見通しが確保できない植栽帯についても、面的な再整備を行います。

- 整備対象：25,000 本（うち、整備に伴う撤去 10,000 本）
- 事業期間：25 年（想定）
- 対 象：400 本/年×5 年＝2,000 本

想定事業量	想定事業費
2,000 本	400 百万円

更 新

(3) - 2 植栽空間と調和した植栽帯への再整備（再整備に伴う更新）

方 針	実行内容
安全・安心の 確保	1 隣接地への影響を及ぼす植栽帯の再整備
	2 公園施設に影響を及ぼす植栽帯の再整備
	3 防犯性の向上のための植栽帯の再整備

敷地境界に近接し隣接地へ影響を及ぼす樹木、園路や石積みなどに近接し公園施設を破損させる樹木、遊具や公園灯に近接し機能を阻害するような樹木については、適正な配置となるよう植栽帯の再整備を行います。

また、過密化が進行し、公園の内部や外部からの見通しが確保できない植栽帯についても、面的な再整備を行います。

樹木の植栽にあたっては、将来樹形を想定し空間に見合った樹種や、地域性を考慮した樹種を採用することとします。

- 整備対象：25,000 本（うち、整備に伴う更新 15,000 本）
- 事業期間：25 年（想定）
- 対 象：600 本/年×5 年＝3,000 本

目標事業量	事業費
3,000 本	960 百万円

(4) 地域に親しまれるシンボル樹木の植栽

方 針	実行内容
快適な公園空間 の創出	1 地域に親しまれるシンボル樹木の植栽
	2 緑陰の確保のための植栽

地域に親しまれる魅力的な公園とするために、シンボルとなる樹木を植栽します。また、公園の面積に対して緑のボリュームが少ない公園では、緑陰を確保するために樹木を植栽します。

植栽にあたっては、地域要望を踏まえた樹種選定や、寄附による植樹を行うなど、地域との連携や協議をすすめます。

- 植栽対象：30 本/年×5 年＝150 本

想定事業量	想定事業費
150 本	14 百万円

せ ん 定

(5) 安全・安心の確保のためのせん定

方 針	実行内容
安全・安心の 確保	1 枯れ枝除去のためのせん定
	2 見通しの確保のためのせん定(防犯性の向上)

日常的に発生する枯れ枝を除去するためのせん定を実施します。また、見通しの確保のための下枝上げなどを実施して、防犯性を向上させ、公園内の安全・安心を確保します。

(6) 景観に配慮したせん定

方 針	実行内容
快適な公園空間 の創出	1 シンボル樹木等の景観に配慮したせん定

公園の魅力である生き生きとした緑あふれる美しい景観を創出できるよう、樹木を健全に保つためのせん定（整姿せん定）を行います。また、大木化した樹木を生育空間に適した樹形に整え、日照や風通しを改善します。

特に、シンボル樹木等ではその木らしさを感じられるよう自然樹形を十分考慮し、その木本来の樹形を損ねることの無いようせん定を行います。

● 対 象：4,000 本/年

想定事業量	想定事業費
4,000 本/年	191 百万円/年

2 想定事業量及び事業費

令和8年度～12年度（5年間）

取組 手法	事 項	想定事業量	事業量 計	想定事業費	事業費 計
手法1 間伐	(1) 安全・安心の確保 のための間伐	2,000本	4,000本	152百万円	552百万円
	(2) 健全な樹木の育成 のための間伐				
	植栽帯再整備	整備対象 5,000本		400百万円	
手法2	(3) 植栽空間と調和した 植栽帯への再整備	（整備に伴う撤去 2,000本 更新本数 3,000本）	3,150本	960百万円	974百万円
更新	(4) 地域に親しまれる シンボル樹木の植栽	150本		14百万円	
手法3 せん定	(5) 安全・安心の確保 のためのせん定	4,000本/年	4,000本/ 年	191百万円 /年	191百万円 /年
	(6) 景観に配慮した せん定				

※想定事業費は労務単価や経費等の上昇を見込んでいない。

3 事業のフロー

事業を実施する公園は、倒木リスクなどの安全性や、公園全体の快適性、地域への影響などの視点に基づき評価し、植栽密度や開園年次と合わせて優先度を定めます。事業の実施にあたっては、これまでの市民意見などを踏まえ樹木の現況を調査し、適正な配置や間隔、密度となるよう計画図を作成します。工事に先立ち、工事の目的や内容、効果などについて、地元への意見聴取を行い工事内容を調整します。

公園の面的整備事業においても、本事業の考え方や取り組みなどを取り入れて実施していきます。



公園の評価

優先度の設定

植栽密度×開園年次×評価の視点

■ 評価の視点

(安全・安心に関する評価項目)

	評価の視点
1	枯損木、樹勢が悪いなど不健全な樹木がある（要簡易診断）
2	遊具等の施設との離隔が確保できていない、又は、照明等の支障となっている
3	道路の建築限界を侵している樹木がある
4	道路占用物件（電線類等）に影響が出ている
5	防犯上の観点から視線を遮り事故を誘発する可能性がある樹木がある
6	隣地等へ枝葉が越境している
7	隣地等へ根が越境したことがある
8	樹木の根により根上がり、施設の破損がある
9	台風等強風時に倒木した場合、周囲に多大な影響を与えることが想定される樹木がある
10	台風等強風時に倒木しやすい樹種がある （例：サクラ類、コナラ、アベマキ、ケヤキ、クヌギ、ヒマヤスギ、アラカシ、ヤナギ、シジユ、ボブウ等）
11	イチヨウの雌木があり、ギンナンがついて枝折れ、幹折れの可能性がある

(快適性に関する評価項目)

	評価の視点
1	樹冠が重なり密生している植栽帯がある
2	公園空間に対し、大木化しすぎている樹木がある
3	植栽帯に樹木が植栽されていない場所がある（目安：15m以上）
4	樹木の配置に偏りがあり、見通しが悪い場所がある
5	常緑樹が多く鬱蒼としている

(地域影響・関係性に関する評価項目)

	評価の視点
1	地域からの住民意見がある（せん定、落ち葉、越境等）
2	地域行事や地域活動の場所として使われている （例：ラジオ体操、グラウンドゴルフ、保育園・幼稚園・学童の利用）
3	学校等市民が利用する公共施設に隣接している
4	地域特性がある（通学路、商店街、繁華街など）
5	【その他特記事項】

4 目指す効果

植栽標準に基づき樹木を「適正な配置」「適正な間隔」「適正な密度」とし「適切な管理」を行うことで、公園全体の樹木を再生・保全・育成し、健全化を図っていきます。

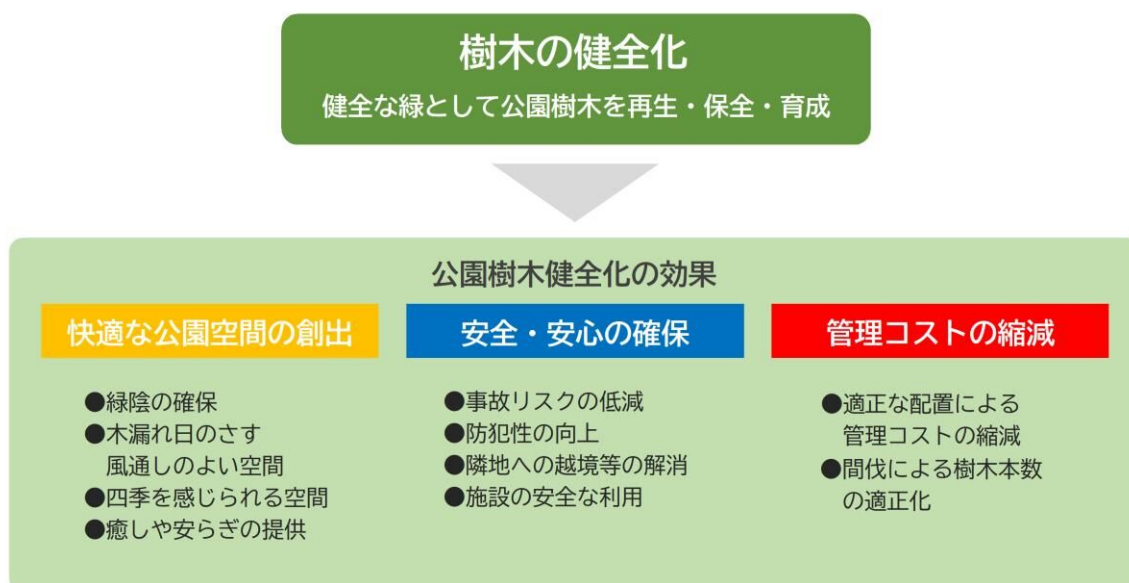
これにより、樹木の持つ機能や役割を最大限発揮させ、倒木などの樹木による事故を未然に防止し、安全・安心で快適な公園空間の創出を図ります。

また、間伐により樹木本数が結果として減少することや、適正な配置により越境防止のための繰り返しのせん定が減少するなど、管理コストも縮減されることから、効果的な維持管理につながります。

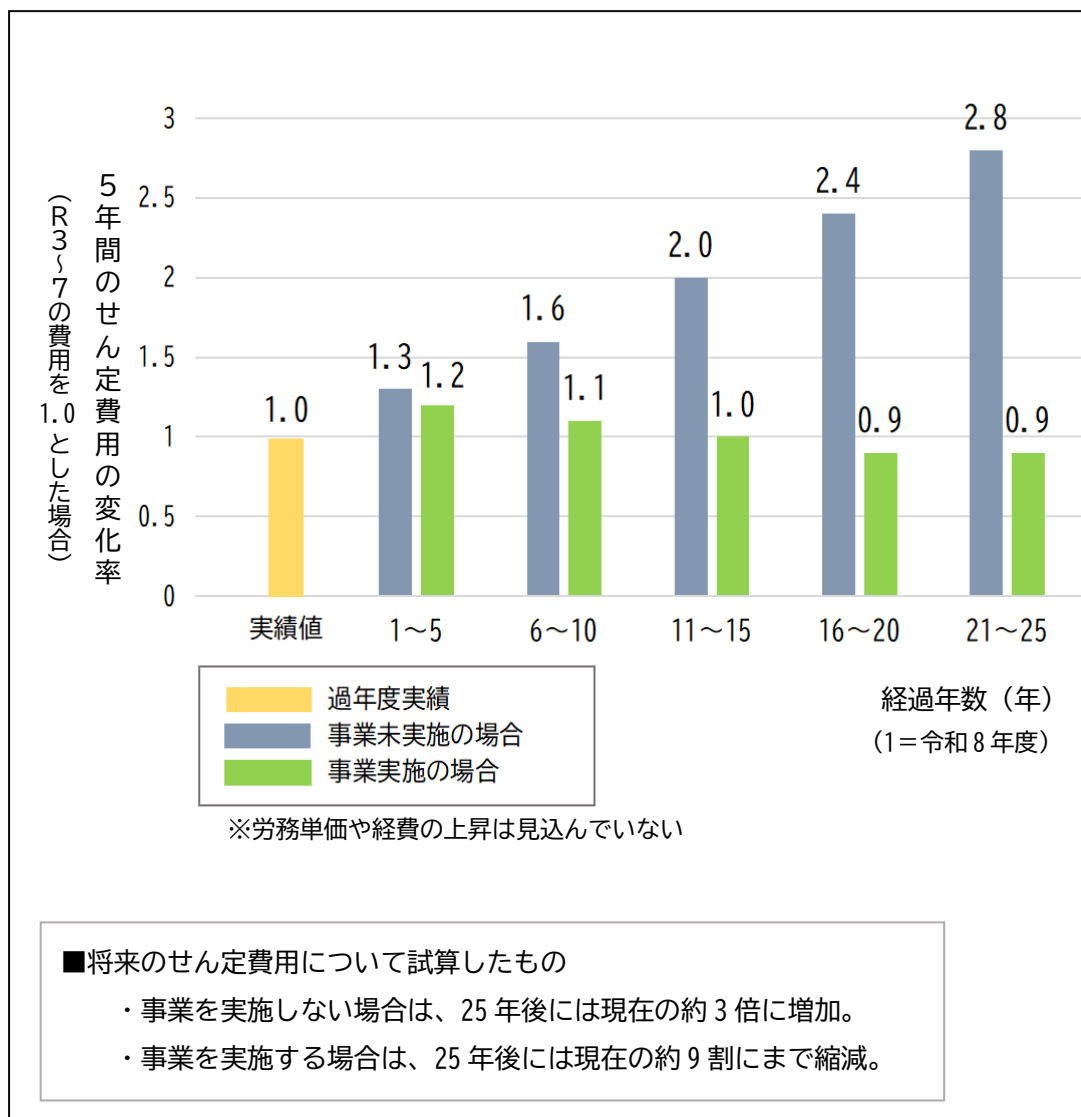
さらに、近年増加傾向になるせん定など公園樹木に対する市民意見については、事業実施により状況が改善され、減少していくことが予想されます。

今後想定される老木化・大木化・過密化に伴う事故リスクの高まり、防犯性・快適性の低下や労務費の上昇等に伴う管理コストの増加に適切に対応するため、事業の計画的かつ継続的な取り組みが不可欠となります。

50年後、100年後の将来を見据えた事業を着実に実施することで、公園緑地を生き生きとした緑があふれる安全で快適な空間とし、次世代へつなぐ地域の緑を育てていきます。



■ 将来のせん定コストのシミュレーション



<資料編>

参考資料 1	樹種別樹木生長量（大樹冠/中樹冠の別）	15
参考資料 2	樹冠の重なり割合と密度・植栽本数の目安	16
参考資料 3	植栽候補樹種一覧	18

1 樹種別樹木生長量（大樹冠/中樹冠の別）

1 樹冠（枝張り）

単位：m

樹 種	樹齢10年	樹齢20年	樹齢25年	樹齢30年	樹齢40年	樹齢45年	樹齢50年	樹冠の別
ソメイヨシノ	5.2	7.3	8.3	9.3	11.4	12.4	13.5	大樹冠
プラタナス	5.1	6.8	7.6	8.5	10.2	11.0	11.9	大樹冠
ケヤキ	5.0	6.2	6.9	7.5	8.7	9.3	10.0	大樹冠
クスノキ	3.4	4.9	5.7	6.5	8.1	8.9	9.7	大樹冠
ユリノキ	3.7	5.0	5.6	6.2	7.5	8.2	8.8	大樹冠
イチョウ	2.0	3.3	4.0	4.7	6.1	6.8	7.5	実績より大樹冠
シラカシ	2.4	4.0	4.8	5.6	7.2	7.9	8.7	実績より中樹冠
コブシ	1.8	3.4	4.3	5.1	6.7	7.5	8.3	実績より中樹冠
サルスベリ	2.7	3.9	4.6	5.2	6.4	7.0	7.7	中樹冠
ヤマモモ	2.5	3.7	4.3	5.0	6.2	6.8	7.5	中樹冠
ハナミズキ	1.9	3.0	3.6	4.1	5.2	5.8	6.4	中樹冠
クロガネモチ	1.5	2.6	3.1	3.6	4.7	5.2	5.8	中樹冠

2 樹高

単位：m

樹 種	樹齢10年	樹齢20年	樹齢25年	樹齢30年	樹齢40年	樹齢45年	樹齢50年	備 考
ユリノキ	8.6	11.1	12.3	13.6	16.1	17.4	18.6	
プラタナス	8.0	10.2	11.4	12.5	14.7	15.9	17.0	
シラカシ	4.6	7.0	8.2	9.4	11.8	13.1	14.3	
ケヤキ	6.3	8.2	9.2	10.2	12.1	13.1	14.0	
イチョウ	5.2	7.3	8.3	9.3	11.3	12.3	13.3	
クスノキ	7.0	8.2	8.8	9.5	10.7	11.3	12.0	
コブシ	4.0	5.8	6.7	7.6	9.4	10.3	11.2	
クロガネモチ	4.2	5.7	6.4	7.1	8.6	9.3	10.1	
ソメイヨシノ	6.6	7.4	7.8	8.3	9.1	9.5	9.9	
ヤマモモ	4.2	5.3	5.9	6.5	7.7	8.3	8.8	
サルスベリ	4.0	5.2	5.8	6.3	7.5	8.0	8.6	
ハナミズキ	2.8	4.2	4.9	5.6	7.0	7.7	8.4	

3 幹回り（胸高幹周）

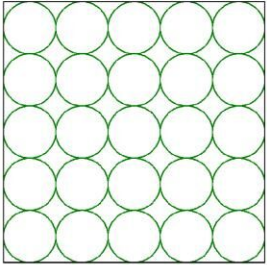
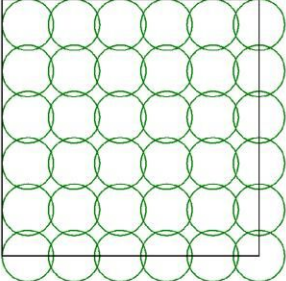
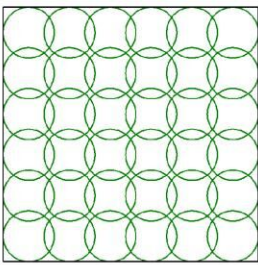
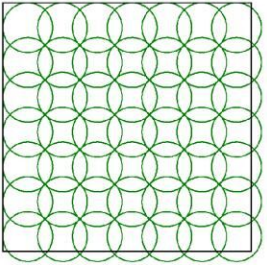
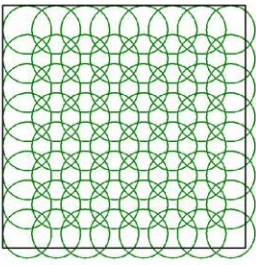
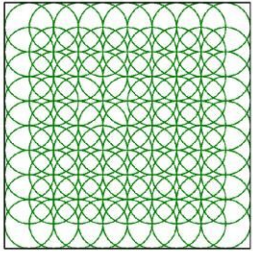
単位：cm

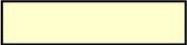
樹 種	樹齢10年	樹齢20年	樹齢25年	樹齢30年	樹齢40年	樹齢45年	樹齢50年	備 考
プラタナス	26	70	92	114	158	180	202	
ソメイヨシノ	50	83	100	116	150	166	183	
クスノキ	44	74	89	105	135	150	165	
ユリノキ	52	77	90	103	128	140	153	
ケヤキ	42	69	82	96	123	136	150	
イチョウ	—	36	53	70	104	120	137	
シラカシ	26	53	66	80	107	121	135	
クロガネモチ	21	48	61	75	102	115	129	
ヤマモモ	38	59	69	80	101	111	121	
コブシ	20	41	51	62	83	94	104	
ハナミズキ	14	31	40	49	66	75	84	
サルスベリ	19	35	43	35	68	76	84	

※国土技術政策総合研究所「公園樹木管理の高度化に関する研究」から算出

2 樹冠の重なり割合と密度・植栽本数の目安

■ 樹冠の重なり割合と密度のイメージ

樹冠の 重なり割合	接する (重なりなし)	1 割	2 割
大樹冠の場合 の密度(間隔)	10 本/1,000 m ² (間隔 10m)	12 本/1,000 m ² (間隔 9m)	16 本/1,000 m ² (間隔 8m)
中樹冠の場合 の密度(間隔)	20 本/1,000 m ² (間隔 7m)	25 本/1,000 m ² (間隔 6.3m)	32 本/1,000 m ² (間隔 5.6m)
イメージ図			
樹冠の 重なり割合	3 割	4 割	5 割
大樹冠の場合 の密度(間隔)	20 本/1,000 m ² (間隔 7m)	28 本/1,000 m ² (間隔 6m)	40 本/1,000 m ² (間隔 5m)
中樹冠の場合 の密度(間隔)	42 本/1,000 m ² (間隔 4.9m)	57 本/1,000 m ² (間隔 4.2m)	82 本/1,000 m ² (間隔 3.5m)
イメージ図			

 : 密度 1 本/100 m²程度

 : 密度 2 本/100 m²程度

■ 樹冠の重なりと植栽本数・密度の目安

樹冠の重なり	樹冠別面積比と本数の組み合わせ (単位：本/1,000㎡)					
	大樹冠のみ	大9：中1	大8：中2	大7：中3	大6：中4	大5：中5
接する (重なりなし)	10本	大9+中2本	大8+中4本	大7+中6本	大6+中8本	大5+中10本
1 割	12本	大11+中3本	大11+中5本	大8+中8本	大7+中10本	大6+中13本
2 割	16本	大14+中3本	大13+中6本	大11+中10本	大10+中13本	大8+中16本
3 割	20本	大18+中4本	大16+中8本	大14+中13本	大12+中17本	大10+中21本
4 割	28本	大25+中6本	大22+中11本	大20+中17本	大17+中23本	大14+中29本
5 割 (半径程度)	40本	大36+中8本	大32+中16本	大28+中25本	大24+中33本	大20+中41本

樹冠の重なり	樹冠別面積比と本数の組み合わせ (単位：本/1,000㎡)				
	大4：中6	大3：中7	大2：中8	大1：中9	中樹冠のみ
接する (重なりなし)	大4+中12本	大3+中14本	大2+中16本	大1+中18本	20本
1 割	大5+中15本	大4+中18本	大2+中20本	大1+中23本	25本
2 割	大6+中19本	大5+中22本	大3+中26本	大2+中29本	32本
3 割	大8+中25本	大6+中29本	大4+中34本	大2+中38本	42本
4 割	大11+中34本	大8+中42本	大6+中46本	大3+中51本	57本
5 割 (半径程度)	大16+中49本	大12+中57本	大8+中66本	大4+中74本	82本

：密度1本/100㎡程度となる組合せ

：密度2本/100㎡程度となる組合せ

3 植栽候補樹種一覧

- ・生育期間 50 年程度生育するものとして想定したもの。
- ・せん定は通常の管理を基本とする。管理方法によりせん定は変動がある。例えば、ある程度樹種特性を捉えたせん定作業を行うこと、など。
- ・生育環境なども同様、樹種特性を考えた植栽地に植えられたものとして選定する。
- ・在来種については、名古屋市環境局「なごやのまちなか生物多様性緑化ガイドライン」による。
- ・樹冠の大きさ：大 10m 以上、中 7 m 程度とする。
- ・樹高の目安：高 15m 以上、中 10m 程度とする。

1 針葉樹

No	樹種名	樹冠の 大きさ	樹高の 目安	在来種	コメント
1	アカマツ	大	高	○	不定芽が出ない、剪定管理は困難の部類。排気ガスで気孔が塞がり、樹勢が衰える。強剪定に耐えない。枝の途中切りはできないので、街路樹としては、枝抜き整形剪定とする。日本庭園等特殊な設定に限定して採用すること。
2	イチョウ	大	高		雌雄異株で結実すると実（ギンナン）が臭う。公園樹や街路樹として植栽する場合は、雄木の方が好ましい。強風では枝折れが多い。剪定後の芽吹きは堅調。都市環境に適応力大。コンパクトに仕立てることもできる。
3	イヌマキ	中	中	○	刈込に強く生垣等にも利用される。公園樹向き。
4	クロマツ	大	高	○	樹形の乱れを修正しにくい。スペースがあれば問題は少ない。アカマツより樹勢は強く、生長力もある。枝の途中切りはできないので、街路樹としては、枝抜き整形剪定とする。
5	コウヤマキ	大	高		都市部では衰退が早く表れる。成長が遅い。煙害、潮風に弱い。公園樹向き。
6	コニファー	中	中		強風で倒れやすい。高温多湿に弱い。強剪定は行えない。
7	コノテガシワ	大	中		樹幹幅が樹高に比べて大きくなる。大きくなると樹形が乱れやすい。
8	ニッコウヒバ	大	高		不定芽が出ない。樹形の乱れを修正しにくい。生長とともに枝枯れが発生しやすい。
9	モミ	大	高		不定芽が出にくい。スペースがあれば問題は少ない。広い根系域が必要。深根性。煙害に弱い。
10	ヒマラヤスギ	大	高		強風で倒木しやすい。放任すると巨木化する。樹勢強健。強剪定しても萌芽力は強い。マツカレハの被害が多い。街路樹としては枝抜き整形剪定とする。公園樹向き。
11	メタセイコイヤ	大	高		放任すると巨木化する。生長が早く、湿り気の多い場所で良く育つ。剪定に強い。根上りする。

2 常緑樹

No	樹種名	樹冠の 大きさ	樹高の 目安	在来種	コメント
1	アラカシ	大	高	○	名古屋近郊では問題なし。狭い場所では暴れた樹形になる。
2	イスノキ	大	高		スペースがあれば問題は少ない。アブラムシ加害が問題。土壌を選ばず、移植は容易。煙害、潮風に強い。
3	ウスギモクセイ	中	中		ギンモクセイの変種。3-4mほどの樹高、広い場所には不適。
4	ウバメガシ	中	中	○	刈り込みに堪えるが、枝が混み過ぎ、枯枝も多くなる。暴れ枝が出やすい。煙害、潮風に強い。中木として扱うことが多い。
5	オガタマノキ	中	中		カラタネオガタマであれば狭幅員でも可能。
6	カクレミノ	中	中	○	幹は直上する。樹形が景観上、問題有り。極陰樹。
7	クスノキ	大	高		巨木化する。スペースがあれば問題は少ない。強風や積雪で枝折れが多い。落枝が多い。重点管理木。
8	クロガネモチ	大	中	○	雌木には実がなる。雌木の伸びは緩やか、管理しやすい。カイガラムシ・スス病がつきやすい。
9	ゲッケイジュ	中	中		葉に芳香がある。寒さに耐える。萌芽力がある。中木として扱うのが良い。
10	サザンカ	中	中		害虫（チャドクガ）に注意が必要。冬期剪定が理想。剪定に耐える。土壌をあまり選ばない。
11	シマトネリコ	中	中		病害虫が少なく、強健である。飛散した種子が植え込みで芽吹き国内外来種として自生する。余分な実生を除去すれば可。乾燥に弱く、下枝があがりやすい。（東京都環境局は緑地における除去対象としている。緑化推進に適さない種に指定した区もある。）
12	シラカシ	大	高	○	葉が明るい。狭い場所では維持管理は難しい。カシ類の中で最も寒さに強い。名古屋地方での樹勢は、アラカシに劣る。テッポウムシに注意。植栽時期は6～7月が適当。
13	シロダモ	大	高		造園木としての生産は少ない。
14	スダジイ	大	高	○	鬱蒼と茂り、暗い雰囲気となる。下枝が太く大きくなり、巨木化する。防火性あり。実は食用になる。
15	ソヨゴ	中	中	○	樹勢は土壌に左右される。せき悪地（痩せて荒れた土地）では衰退する。雌木は赤い実をつける。寒さに強い。
16	タイサンボク	大	高		樹形はばらついて大型化する。葉が大きく、樹形維持するのは難しい。剪定すると樹形が乱れやすい。移植はやや困難。公園樹向き。
17	タブノキ	大	高	○	生長早く、樹冠が広がる樹形となる。移植はやや困難。
18	ツブラジイ	大	高	○	鬱蒼と茂り、暗い雰囲気となる。巨木化する。管理上はスダジイに同じ。
19	ヒイラギ	中	中	○	葉にとげがある。マルハヒイラギは伸長量少なく剪定がしやすい。
20	ヒメユズリハ	大	中		ユズリハと樹の大きさは変わらない。スペースがあれば問題は少ない。
21	ホンバタイサンボク	大	中		樹形はばらついて大型化する。葉が大きく、樹形維持するのは難しい。
22	ホルトノキ	大	高		スペースがあれば問題は少ない。病虫害に強い。根は大根性。
23	マテバシイ	大	中		枝が直線的に伸長するので剪定はしやすい。幅広の樹形になる。ヒコ生えが発生しやすく、同時に幹の芯枯れをおこしやすい。固い土壌での被害が顕著。強剪定で枝枯れしやすい。名古屋地方では生育が芳しくない。
24	モチノキ	大	高	○	剪定に耐え、芽吹きも良い。害虫（カイガラムシなど）発生に注意が必要。
25	モッコク	中	中		害虫（ハマキガ）発生に注意が必要。生長は遅い。耐煙性、耐潮性は強い。
26	ヤブツバキ	中	中	○	害虫（チャドクガ）に注意が必要。土壌条件が厳しい。
27	常緑ヤマボウシ	中	中		病虫害に強い、乾燥・日差しなどにも強い。剪定後の萌芽も良好。移植後1～2年は冬季落葉する。
28	ヤマモモ	大	中	○	明るい緑葉で剪定もしやすい。害虫（ミノムシなど）発生に注意が必要。寒さにやや弱い。生長は遅い。雌雄異株。雌木は時に大量に結実する。
29	ユズリハ	大	中		ヒメユズリハと樹の大きさは変わらない。スペースがあれば問題は少ない。萌芽力に乏しいため剪定を嫌う。

3 落葉広葉樹

No	樹種名	樹冠の 大きさ	樹高の 目安	在来種	コメント
1	アカシデ	大	高		樹形維持はやや難しい。剪定で自然樹形を保つのは困難。公園樹向き。
2	アキニレ	大	高	○	生長がはやく、実生の発生が多い。やや大型化する。広いスペースであれば問題は少ない。剪定でコンパクトに仕立てることができる。
3	アメリカフウ	大	高		樹勢良く、維持管理に問題有り。根上がりの発生頻度が高い。
4	アベマキ	大	高	○	自然樹形維持は困難。
5	イタヤカエデ	大	高		自然樹形維持は難しい。生長は早い。
6	イヌエンジュ	大	高		やせ地に耐え、剪定後の芽吹きも良い。エンジュの方が一般的。キノコに注意。大きくなると倒木の危険がある。幹にガンシユ病がつきやすい。
7	イヌシデ	大	高		樹形維持はやや困難。剪定で自然樹形を保つのは困難。公園樹向き。
8	イロハモミジ	大	高	○	放任できるスペースが必要。剪定はなるべく避ける。
9	ウメモドキ	中	中	○	伸長量少なく、街路樹としては不適。生長は遅い。公園樹の中木扱いが良い。
10	ウメ	中	中		伸長量多く、また長い。街路樹としての樹形をつくるのは難しい。萌芽激しく、毎年の剪定が必須。
11	エゴノキ	大	中	○	広いスペースがあれば問題は少ない。株立ち状になりやすい。花殻が大量に散る。公園樹向き。
12	エノキ	大	高	○	巨木化する。落ち葉などの問題が多く発生する。国蝶のオオムラサキの食草。公園樹向き。強剪定で枝枯れしやすい。
13	オオカンザクラ	大	中		早咲き（3月中～下旬）。大型化するので維持管理が難しい。広いスペースであれば問題は少ない。
14	オオシマザクラ	大	高		大型化するので維持管理が難しい。広いスペースであれば問題は少ない。枝の切り口から腐れやすい。他のサクラ類に比べ都市環境に適応する。
15	オオヤマザクラ	大	高		寒地のサクラ、大型化する。枝の切り口から腐れやすい。花はピンク色。
16	サクラ（オカメ）	中	中		ソメイヨシノの代替樹にできる。
17	カツラ	大	高		巨木化する。西日などの幹焼けに注意。乾燥地では生育が劣る。ヒコ生えが出やすい。
18	カリン	中	中		赤星病に注意（ビャクシン類との近接植栽を避ける）。幹肌が美しく秋に大果がつく。テッポウ虫被害あり。
19	サクラ（関山（カンザン））	中	中		樹高は高くないが、横に広がる。広いスペースであれば問題は少ない。
20	カンヒザクラ	中	中		樹高は高くないが、横に広がる。広いスペースであれば問題は少ない。
21	モモ（キクモモ）	中	中		モモの一品種で菊咲き。枝幹は直上する。病害虫が多い。短命。
22	キリ	大	高		生長早く、横に広がる樹形は街路樹には不適。
23	クヌギ	大	高		自然樹形維持は難しい。やや湿り気の多い土地を好む。
24	ケヤキ	大	高		巨木化する。広い場所であれば適正。植栽間隔は12m以上としたい。落枝が多い。重点管理木。
25	コナラ	大	高	○	自然樹形維持は難しい。横に広がる樹形で株立ちが多い。
26	コヒガンザクラ	中	中		ソメイヨシノの代替樹にできる。小型。
27	コブシ	中	中		植え付けは土極めも可能。肥沃地では開花は少ない。幹焼けに注意。
28	サトザクラ	中	中		ソメイヨシノより小型。広いスペースがあれば問題は少ない。
29	サルスベリ	中	中		強健で管理しやすい。病害虫（スス病、ウドンコ病など）に注意が必要。定期的なひこばえ除去が必要。強剪定することで花つきがよくなる。シマサルスベリは高木用。
30	サワフタギ	中	中		上品な木だが流通が少ない。
31	サンシュユ	中	中		樹高も5mほどで管理しやすい。横に幅広い樹形となる。
32	シダレウメ	中	中		街路樹としては不向きだが、観光地の園路脇には良い。
33	シダレザクラ	大	中		広いスペースがあれば問題は少ない。切り口から腐れやすい。
34	シダレヤナギ	大	中		枝葉の伸びが旺盛。強剪定で樹勢が衰退する。湿り気の多い土地を好む。年2回の剪定が必要。
35	シデコブシ	中	中	○	樹高5mほどで管理しやすい。星形に開花する。花は白～淡い紅色。短命。横に広がる。
36	シモクレン	中	中		株立ちとして管理できれば問題は少ない。花は紫色。通常株立ちとなるが単幹仕立てにもできる。短幹仕立てにもできる。短命。
37	シャラノキ	中	中		別名ナツツバキ。枝が斜上し樹幹幅は狭くできる。乾燥・西日に弱い。強剪定は避ける。
38	サクラ（十月桜（ジュウガツザクラ））	中	中		小型の花で長く楽しめる。放任に近い管理ができれば問題ない。
39	サクラ（神代薔（ジンダイノケボノ））	大	中		ソメイヨシノの代替樹となる。シンクイムシの被害にあいやすい。

No	樹種名	樹冠の 大きさ	樹高の 目安	在来種	コメント
40	ソメイヨシノ	大	中		病害虫（アメリカシロヒトリ、テングス病など）管理など、管理次第で長寿となる。剪定を嫌う。切り口から腐りやすい。
41	タイワンフウ	大	高		巨樹化する、樹勢も旺盛。広いスペースであれば問題は少ない。
42	トウカエデ	大	高		広いスペースであれば問題は少ない。アブラムシ・カイガラムシ・ウドンコ病がつきやすい。
43	トチノキ	大	高		乾燥に弱い。葉が大きく、広いスペースであれば問題は少ない。風で葉がいたむ。
44	ベニバナトチノキ	大	高		管理次第で適正樹。カミキリムシの食害が多い。
45	ナンキンハゼ	大	高		生長は早い。剪定量はかなりあり、広い場所向き。新緑・紅葉が美しい。冬期の移植はやや困難。
46	ネグンドカエデ	大	高		美しいが樹勢は弱い、直立しないので公園向き。街路樹使用には難点多い。
47	ネムノキ	大	高	○	広げた樹冠が美しいので場所を選ぶ。柔らかな緑陰をつくるのに向いている。剪定を嫌う。生産少ない。移植は困難。
48	ノムラモミジ	大	中		害虫（カミキリムシ）による衰退・枯死が多い。放任できるスペースがあれば適正。ヤセ地での生育は劣る。
49	ハウチワカエデ	大	中		乾燥に弱い。やや大型で都会には不向き。街園への植栽なら適正。
50	ハクウンボク	大	中		街園等広い場所向き。枝は太く、粗生する。
51	ハクモクレン	大	中		徒長枝多い、管理はしやすい。広い場所向き。植付は土極めとする。移植はやや困難。
52	ハナズオウ	中	中		樹高3mほどで管理できる場所なら適正。株立ちになりやすい。
53	ハナノキ	大	高		生長良好で管理しやすい。害虫（カミキリ）に注意。広い場所向き。
54	ハナミズキ・赤	中	中		乾燥に弱い、せき悪地では衰退する。剪定には弱いので樹冠を広げられる広い場所が理想。生長は遅い。乾燥に弱い。
55	ハナミズキ・白	中	中		赤花よりも樹勢は強い。剪定には弱いので樹冠を広げられる広い場所が理想。生長は遅い。乾燥に弱い。
56	モモ（ハナモモ）	中	中		観賞用のモモの品種。栽培特性はクモモとほぼ同じ。立ち性が街路樹向き。
57	ハルニレ	大	高		寒冷地の木、名古屋でも見かけるが樹勢は弱い。
58	ハンカチノキ	中	中		流通が少ない。枝がばらつき纏まらない。
59	エドヒガンザクラ	大	高		巨木化する。広いスペースであれば問題は少ない。
60	ヒトツバタゴ	大	中	○	管理しやすい。剪定後の萌芽も見込める。樹冠を広げたい。別名ナンジャモンジャ。純白の花が樹冠を覆い雪が積もったように美しい。強剪定で枝が暴れやすい。
61	ヒメシャラ	中	高	○	乾燥・日焼けに弱い。樹冠幅狭く街路樹としては不適。
62	プラタナス	大	高		緑陰樹利用には向く。病害虫（カミキリ等）が多く、剪定量も多い問題多し。樹勢強健だが、アメリカシロヒトリがつきやすい。テッポウ虫被害大。
63	キミジ（無孔雀（マイクジャク））	中	中		乾燥に弱い。街路樹としての利用には不向き。
64	マメナシ	中	中	○	樹体が小さく、街路樹には不向き。古木となるまではトゲがある。遺伝子の攪乱に注意が必要。
65	マロニエ	大	高		別名セイヨウトチノキ。テッポウムシ害が致命傷となる。花は美しい。暑さに
66	マンサク	大	中	○	枝が斜上し、街路樹には不向き。マンサク萎凋病に注意。
67	ムクゲ	中	中		剪定後の芽吹きが良い。樹形管理はしやすい。
68	ミズナラ	大	高		寒冷地の木、名古屋近郊では樹勢衰退気味となる。造園木としての生産は少な
69	ムクノキ	大	高	○	巨樹化する、樹勢も旺盛。広いスペースであれば問題は少ない。甘い実は食べられ、野鳥の食餌木になる。
70	ヤエザクラ	中	中		多くはサトザクラの中の八重咲品種の総称。樹体はソメイヨシノよりも小型、樹勢は弱い、ある程度放任するスペースが必要。枝の切り口から腐れやすい。八重咲きで開花はソメイヨシノより半月遅い。
71	ヤマザクラ	大	高	○	長寿だが大きくなる、広いスペースであれば問題は少ない。サクラ類の中では比較的立ち性。
72	ヤマハンノキ	大	高		やせ地に耐えるが、公園樹としての利用は少ない。
73	ヤマボウシ	中	中		病害虫には強い、樹勢もあり管理しやすい。すす病には注意。乾燥を嫌う。
74	ヤマモミジ	大	中		樹冠を広げるスペースがあれば適正樹。乾燥に弱い。
75	ユリノキ	大	高		巨木化する。根上がりの発生頻度が高い。
76	カエデ（ルブルム）	大	高		生長早く巨木化する。虫害（カミキリ等）に注意。別名アメリカハナノキ。根上がりの発生頻度が高い。移植はやや困難。

4 その他特殊樹木

No	樹種名	樹冠の 大きさ	樹高の 目安	在来種	コメント
1	アメリカデイゴ	中	中		街園・壁面などへの利用は適正。毎年の切り詰め剪定が必要。
2	アメリカハナズオウ	中	中		強風に弱く、枝折れしやすい。
3	カナリヤシ	中	中		ひろいスペースでの植栽は、南国風で良い。
4	トウジュロ	中	中		葉の手入れが難しい。シュロのように葉は垂れ下がらない。複数本で植栽する。
5	ノウゼンカズラ	—	—		蔓性、支柱が必要。管理はしやすい。
6	フジ	—	—		別名ノダフジ。蔓性。支柱・棚が必要。狭い場所では維持は難しい、花がいずれ咲かなくなる。

公園樹木健全化なごやプラン

令和 7 年 10 月

名古屋市 緑政土木局 緑地部 緑地維持課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号

TEL : 052-972-2483 FAX : 052-972-4143

URL : <https://www.city.nagoya.jp>